

# 平成29年度 学校評価書

平成30年 2月 20日  
 浜松学院大学附属幼稚園  
 園長 山崎 亜佐美

## 1 本年度の重点目標

- ・ 大好き楽しい絵遊びから絵画活動への実践「絵画造形活動の実践より学ぶ」
- ・ 安全管理および保育環境の見直し
- ・ 子育て新制度に関する幼稚園将来構想の検討

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※ 自己評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少しの成果があった）、D（成果がなかった）の数値で表すこと

評価	評価項目	具体的な取り組み	改善策	学校関係者評価委員の意見	評価
B	<b>保育の計画性</b> ・ 園の教育課程および学年別指導計画を作成する。 ・ 指導計画に基づいた環境構成を行う。 ・ 自分の保育を日々振り返って反省と評価を行い次の計	・ 学年内での共通認識を深めるよう教育課程とその実践方法を話し合い、同等の力で保育、行事に取り組む。 ・ 子どもの豊かな感性を育む季節感のある環境構成を行う。 ・ 子どもの発達や育てたい力を見通した振り返りができるよう全	・ 学年内での定期的な話し合いを持つ。また、3年間を見通した計画を立案し共通理解していく。 ・ 子どもの年齢や発達、興味に合わせた環境構成を考え、継続する環境、変化をつける環境を見極めていく。	・ 平成30年度施行新幼稚園教育要領の内容を既に先取りして実践している。教員はそれを自覚し、自信や自己肯定感をもって保育に取り組んで欲しい。	A

	画に生かす。	<p>体や学年での話し合いを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画活動において、育てたい力や具体的な方法を検討、工夫し、活動や内容を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラスごとの取り組み方法と子どもの表れを報告し合って実践結果を共有し、各自の実践に結び付ける。</li> </ul>		
<b>B</b>	<p><b>保育の実践力と環境設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの健康と安全を意識している。</li> <li>・ 子どもの衛生環境に配慮し病症の感染予防に努める。</li> <li>・ 子ども一人ひとりの思いや発見を大切にしながら活動を進める。</li> <li>・ 発達に応じた保育活動をし、子どもは満足感や達成感を感じている。</li> <li>・ 子どもの実態や状況に即した環境構成をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師一人ひとりが危機管理意識を持ち、常時安全な生活を心掛ける。</li> <li>・ 園内の安全な生活の約束を、視覚教材を使って園児に周知する。</li> <li>・ 子どもの言動をきちんと受け止め、クラス全体にその子の良さとして伝えることを心掛ける。</li> <li>・ 臨床心理士による育児相談及び教員とのカンファレンスを実施し、親子の心理に寄り添った適切な支援を行う。</li> <li>・ 環境構成、教材作りは、考えたり試したりする中で、子どもの様子や育ちを見極めながら行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全、衛生に関する生活習慣の自立を促し、園児が自ら意識して落ち着いた生活や感染予防ができるようにする。</li> <li>・ 教師一人ひとりがどの子にも目をかけ、様子を伝え合うことで、園全体で子どもを見ていく意識を持つ。</li> <li>・ 保育や保護者相談に活用できるよう、教員と心理士の話し合いの時間を有効に使う。</li> <li>・ 教師が互いにアイデアを出し合い、より良いものを提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全面、衛生環境整備に配慮していることが、見てわかるように充実させることが大切である。</li> <li>・ 教職員の働く環境を整備することも重要である。</li> <li>・ 子ども一人ひとりへの教師のかかわりがとても丁寧である。子どもにとって家族以外に信頼できる人の存在を感じられることがわかる。</li> <li>・ 個々の発達に沿った援助をしていること、専門的な支援を要する園児の受け入れをしていることは良い。</li> <li>・ 既成遊具、廃材利用工作など多様な教材を利用し、体全体や手先を動かす活動をすることが望ましい。</li> </ul>	<b>A</b>

<p style="text-align: center;"><b>B</b></p>	<p><b>教師の資質とチーム力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師としての能力、姿勢、義務を果たしている。</li> <li>・決められた役割や仕事は責任を持って実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指導内容や保育力を高めていくために教育、保育に対する意識や具体的方法を伝え合う。</li> <li>・日頃から自分の感性を磨き子どもへの共感性を養う努力をする。</li> <li>・相談しやすい雰囲気を作り、職務内容に困難が生じた場合は解決と改善を図る。</li> <li>・主担任と副担任、補助教員が保育に関する視点を共有できるよう話し合いの時間を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、保育活動に関して幅広く興味関心を持ち、教師としての感性や人間性を高める。</li> <li>・それぞれの教師が共同でクラス運営、園運営にあたっているという意識を持ち職務に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の若手世代に合わせた育成が必要である。若手とベテランの経験差を埋めるよう、各教員が知識や経験を互いに伝え、取り込むよう、常日頃から意識して取り組んで欲しい。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p>
<p style="text-align: center;"><b>B</b></p>	<p><b>保護者への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信で子どもの様子やクラス集団の成長とその意味を伝える。</li> <li>・個人面談やクラス懇談会は伝達内容をあらかじめ書き留めて伝え、意味あるものとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信の枚数や、お便り帳の受け渡し回数に差が出ないように各自心掛ける。</li> <li>・クラス懇談会や面談で充実した話し合いが進むよう、事前に学年共通の議題を設定したり記録を整理したりして臨む。</li> <li>・毎週木曜日に臨床心理士によるカウンセリング日を設け、保護者に対してきめ細かい心のケアをする。親子支援だよりを月1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信はわかりやすい内容になるよう意識し、相談したり読み合ったりして書く。</li> <li>・保護者が知りたいクラスの様子や成長の姿を伝えることができるようにする。</li> <li>・内容によっては、心理士から教員がアドバイスを受け、保護者の思いに共感しながらコミュニケーションを図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者参観会の内容について、保護者参加型の内容だけでなく、園児の普段の活動を参観する機会もあると良い。</li> <li>・保護者対象のカウンセリングと親子支援だよりの発行は、他園で取り入れているところはあまりない。今後も続けて行って欲しい。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの意見や要望を聞き入れ的確な対応をする。</li> </ul>	<p>回発行し、カウンセリング事業の周知を図る。</p>	<p>ことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題に対しては、迅速かつ丁寧に対応する。</li> </ul>		
<b>B</b>	<p><b>地域との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園に対する問い合わせや訪問者に正確な対応ができる。</li> <li>子育て支援の場や機会の提供を地域へ発信する。</li> <li>地域の人々と挨拶や会話を交わす。</li> <li>地域の自然や施設、人を必要に応じて利用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内の行事やシステム、未就園児対応に関する情報の資料を配布、説明をして全教職員が共通理解する。</li> <li>毎週木曜日の「どんぐりクラブ」の充実を図り、近隣地域の親子が心身ともに解放しながら楽しめるような企画をし、地域の子育て支援事業に貢献する。</li> <li>地域の方々を園行事に招待し、園の活動を知ってもらったり交流を図ったりした。</li> <li>親子でエコ活動に参加することで、小さな働きが社会や人々に役立っていることを知り、環境問題に関心を持つ（エコキャップ回収、廃材の工作利用など）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来客や電話はどの教職員も誠実に対応できるよう、情報の共有や資料の熟読を心掛ける。</li> <li>来園者には温かい挨拶や対応を心がけ、園全体で歓迎する雰囲気づくりをする。</li> <li>登降園の際や園外に出かける時は、公共のマナーやルールを守る意識を持たせ、地域の人々と気持ちのよいかかわりを持てるようにする。</li> <li>植物栽培や節水等、幼稚園での活動や意識がエコ活動につながっていることを折に触れて子どもに伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入園説明会での個別対応の場は、入園を迷っている保護者への後押しとなるので、時間を確保したい。</li> <li>バス通園が増えているが、徒歩通園の良さを発信し、地域とのつながりを保ちたい。徒歩通園は就学時のより安全な徒歩通学につながる。</li> <li>シルバー人材センターや農地貸し出し等、地域資源の活用を模索していくことができるとうい。</li> <li>保護者会、クラス懇談会などで、園児の廃材利用作品展示をすることで園児のエコ活動の周知につながる</li> </ul>	<b>A</b>

				る。リサイクルの仕組みなどを園児に伝えていくことができると良い。	
B	<p><b>研修への参加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会では自己課題を明確にして積極的な参加をしている。</li> <li>・園内研修は、各自が意見を述べる場がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育に役立つ研修会や、子どもの理解と支援につながる勉強会を提示し、職員の参加を求める。</li> <li>・絵画研修では他園を招いて公開保育を行った。また、各クラスでの具体的な絵画活動の実践報告を行い、今後の参考にできるようにした。</li> <li>・カウンセリング、親子支援、コミュニケーションスキルに関する学習会を2回行った。事前に教員にテーマやポイントを提示し、それに沿った各自の体験報告や意見交換をした。また、コミュニケーション演習を行い、人との関わり方について学んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数に合わせた研修会への参加や幅広い分野からの研修選択をし、学んでいく。</li> <li>・各々の知識、経験を他教員に伝えること、他教員から報告を聞き各クラスの実態に合わせて実践する。</li> <li>・園内研修では報告や資料を事前に配布、それを熟読して研修会に臨み、時間を有効に使いながら活発な意見交換や学び合いができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画造形表現研修は、教員が園児の気持ちや心の内を捉えたり、子ども自身の感性を磨いたりすることにつながるため、今後も研修を重ねることが望ましい。</li> <li>・教員の経験や知識を互いに伝え合い取り入れて、自分なりに発信、実践していく必要がある。</li> </ul>	A

B	<p><b>外部アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園に行くことを楽しみにしている。</li> <li>・規則正しい生活を送る。</li> <li>・人とかかわる力が育ってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちを一人ひとり温かく受け止め、楽しく安心した生活を作る。</li> <li>・教師や友達との楽しい心の交流を様々な場面で体験させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊びや生活を、子どもの発達をおさえた視点で適切にとらえ構成する。</li> <li>・日々の子どもの姿から心の内を把握し、対応を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの回答から、安心して幼稚園に通わせていることが分かる。</li> <li>・保護者アンケートの「はい」と「大体当てはまる」の回答数の差から読み取れる保護者の心理を真摯に受け止め、すぐに対応していくことは重要である。</li> </ul>	B
---	--	---	---	---	---